

テーマ：貿易統計（2011年10月）

発表日：2011年11月21日（月）

～海外景気の減速を背景に輸出が下振れ。先行きも低調な推移が予想される～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

	貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量		
	原数値	季調値	輸出金額		アメリカ			EU			アジア		
			前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
10	1月	431	5776	40.9	9.3	41.3	17.8	14.0	63.6	2.2	3.6	▲0.5	5.6
	2月	6383	4833	45.3	29.8	45.9	46.1	15.4	53.4	23.0	4.5	13.7	39.5
	3月	9319	8566	43.4	21.0	43.9	29.4	28.2	48.9	17.0	6.3	16.5	17.6
	4月	7292	8712	40.4	24.5	39.6	38.2	32.3	40.6	17.7	21.2	13.1	19.8
	5月	3091	5317	32.1	33.7	31.8	19.3	34.6	28.2	22.3	24.7	22.2	27.5
	6月	6705	5069	27.7	26.5	27.4	27.4	27.0	26.6	18.1	24.9	23.5	19.2
	7月	7846	5528	23.5	16.1	25.5	27.5	31.5	22.9	13.9	22.0	23.9	14.3
	8月	638	5250	15.5	18.4	14.2	11.5	26.7	14.6	19.2	18.1	16.5	20.9
	9月	7743	3906	14.3	10.3	16.1	17.0	29.1	14.6	10.6	7.5	10.0	13.4
	10月	8126	5145	7.8	8.9	5.3	9.5	11.3	5.9	5.8	▲11.1	11.5	7.9
	11月	1576	3931	9.1	14.3	9.1	11.1	25.8	11.3	15.4	20.8	1.8	19.7
	12月	7196	3821	12.9	10.7	11.4	16.3	22.1	11.6	7.8	▲1.9	3.1	10.7
11	1月	▲4794	1657	1.4	12.2	2.3	14.5	13.4	▲1.8	11.2	5.9	6.3	13.6
	2月	6503	4687	9.0	10.0	9.2	3.7	22.1	11.0	4.9	10.9	9.5	4.1
	3月	1863	656	▲2.3	12.0	▲3.3	0.9	8.4	▲1.1	5.5	1.6	▲5.7	14.4
	4月	▲4677	▲4432	▲12.4	9.0	▲11.6	▲21.2	▲8.5	▲6.4	1.3	7.5	18.9	1.8
	5月	▲8573	▲4610	▲10.3	12.4	▲10.8	▲9.9	▲12.3	▲7.9	5.5	13.7	4.7	6.1
	6月	673	▲2026	▲1.6	9.8	▲2.7	▲2.5	2.2	▲2.5	1.7	▲1.0	▲1.9	5.1
	7月	679	▲1611	▲3.4	9.9	▲5.3	▲5.7	1.8	▲4.7	▲2.6	▲4.3	2.2	0.5
	8月	▲7796	▲3124	2.8	19.2	0.9	6.1	4.2	▲1.8	6.0	12.4	9.4	8.6
	9月	2962	▲967	2.3	12.1	1.5	▲0.4	3.2	▲2.8	1.0	3.7	9.8	0.6
	10月	▲2738	▲4579	▲3.7	17.9	▲4.0	▲4.7	▲2.1	▲7.0	6.0	14.2	9.0	5.0

(出所)財務省「貿易統計」

○ 輸出が大幅に減少

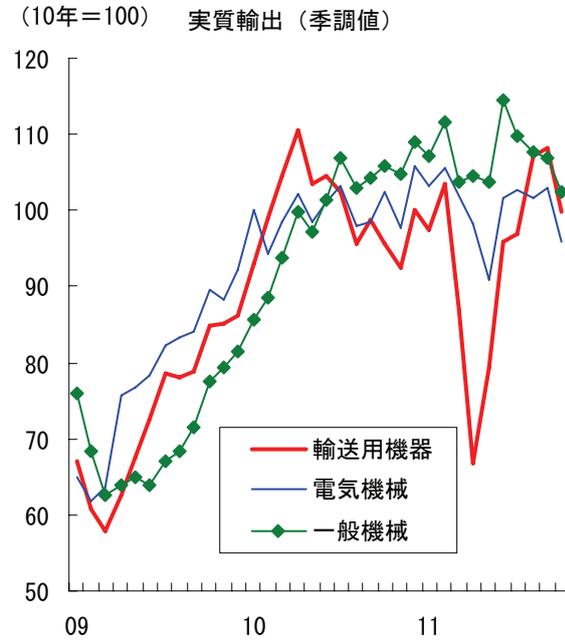
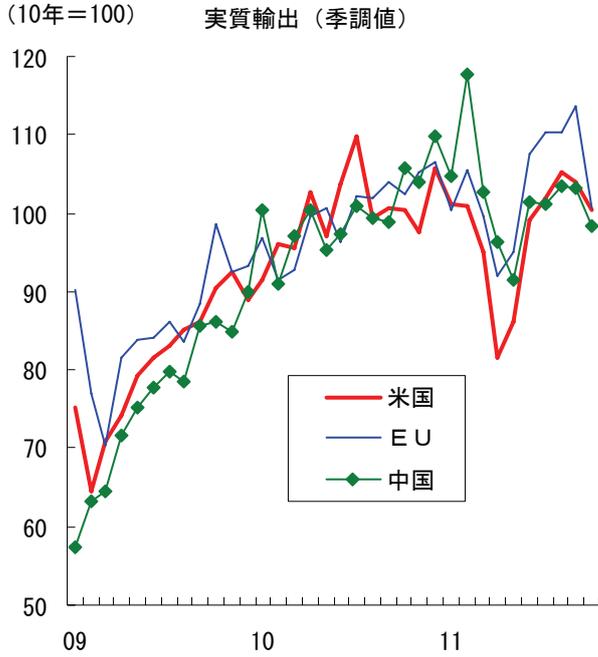
財務省より発表された2011年10月の貿易統計では、輸出金額が前年比▲3.7%と3ヶ月ぶりに減少した。市場予想（前年比▲0.3%、当社予想：▲2.0%）を大きく下回る弱い結果である。輸出金額の季節調整値も前月比▲3.5%（9月：同+1.4%）、物価変動の影響を除いた実質輸出で見ても前月比▲5.4%と大幅に減少している（実質化と季節調整は当社）。実質輸出は8月に同+2.1%、9月に同+1.2%と緩やかに増加していたが、10月の落ち込みで完全に帳消しになった。地域別に見ても全般的に落ち込んでいるが、特にEU向けの減少幅が大きく、同地域の景気減速の影響が顕在化し始めたことが窺える。

サプライチェーン復旧に伴う押し上げが一巡したなか、海外需要の減速、IT部門の低迷等が輸出の下押し要因になったと考えられる。先行きについても、海外景気減速の影響が一段と強まることが予想されることに加え、円高の悪影響も次第に顕在化する可能性が高いことなどを考えると、輸出は停滞感を強めていくことが予想される。海外経済動向次第では輸出が減少トレンド入りすることも十分想定される状況である。

10月の落ち込みの結果、10月の実質輸出の水準は7-9月期平均を3.9%下回った。7-9月期の輸出はGDPの影響から大幅な増加となっていたが、10-12月期は減少に転じる可能性が出てきた。一方で輸入が依然底堅さを保っていることを踏まえると、10-12月期は外需寄与度がマイナスになる可能性が高いだろう。10-12月期には、個人消費が7-9月期の高い伸びから一転して減少となる見込みであることも踏まえると、GDP成長率が前期比でマイナスになる可能性も十分あるだろう。

○ 当面、貿易赤字が続く見込み

こうした輸出の下振れに加え、輸入が引き続き高い伸びを保ったことから、貿易収支は2738億円の赤字となった。事前予想である399億円の黒字を大幅に下回っている。また、季節調整値では4579億円の赤字である。季節調整値では7ヶ月連続の赤字であり、赤字幅も9月の967億円から大幅に拡大している。先行きについても、輸出の停滞が予想されるなか、当面貿易収支は赤字が持続する可能性が高いだろう。



(出所) 財務省「貿易統計」

(注) 実質化と季節調整は第一生命経済研究所